

第一回館山市議会议定例会议録（第六号）



一、昭和五十六年三月二十七日（金曜日）午前十時

二、館山市役所議場

一、出席議員 二十七名

一 番 神 田 守 隆	二 番 石 井 謙
四 番 横 溝 功	五 番 福 原 勤
七 番 古 賀 礼 四 郎	八 番 石 井 昌 治
九 番 松 下 正 己	一 番 林 豊
一 二 番 栗 原 一 雄	一 三 番 近 藤 好 雄
一 四 番 渡 辺 昭 夫	一 五 番 伊 藤 幸 太 郎
一 六 番 押 元 稔	一 七 番 黒 川 平 治
一 八 番 流 山 源 次 郎	一 九 番 石 井 輝 久
二 〇 番 石 井 武 敏	二 一 番 吉 田 勇 治 郎
二 二 番 藤 田 益 治	二 三 番 菊 井 敏 博
二 四 番 和 田 一 郎	二 五 番 五十 嵐 昇
二 六 番 伊 賀 多 朗	二 七 番 石 井 正
二 八 番 安 澤 德 順	二 九 番 安 西 益 男
三 〇 番 山 口 康	

一、欠席議員 なし

一、出席説明員

第一号に同じ

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第六号）

昭和五十六年三月二十七日午前十時開議

議案第 十三号 非常勤の特別職の職員に係る報酬及

日程第一

議案第十四号

び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する

条例の制定について

館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

館山市職員等の旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定について

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二十四号

館山市廃棄物の処理及び清掃に関する

議案第二十三号

館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定

議案第二十二号

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二十一号

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二十号

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十九号

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十八号

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十七号

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

日程第二

る条例の一部を改正する条例の制定について

開 議 午前十時三十分開議

議案第二十七号 昭和五十五年度館山市と畜場特別会計補正予算(第一号)

市道路線の認定について

○議長(五十嵐 昇君) 本日の出席議員数二十七名、これより第一回市議会定例会第六日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

議案第二十五号 昭和五十五年度館山市水道事業特別会計補正予算(第二号)

議案の配付

昭和五十六年度館山市一般会計予算

議案第四号 昭和五十六年度館山市国民健康保険特別会計予算

○議長(五十嵐 昇君) 議案を配付いたさせます。

議案第五号 昭和五十六年度館山市と畜場特別会計予算

議案の配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案第六号 昭和五十六年度館山市と畜場特別会計予算

議案の上程

議案第七号 昭和五十六年度館山市ユースホステル特別会計予算

議案第八号 昭和五十六年度館山市学童災害共済事業特別会計予算

○議長(五十嵐 昇君) 日程第一、議案第十三号乃至議案第二十六号及び議案第二十六号の各議案を一括して議題といたします。

議案第九号 昭和五十六年度館山市水道事業特別会計予算

総務委員会委員長報告

議案第十号 昭和五十六年度館山市国民宿舎事業特別会計予算

○議長(五十嵐 昇君) ただいま議題となりました各議案は、ともに去る三月十三日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

議案第二十九号 昭和五十六年度館山市一般会計補正予算(第一号)

契約の変更について

よって、これより各議案に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

議案第三十号 予算(第一号)

総務委員会委員長藤田益治君。御登壇願います。

議案第三十一号 人権擁護委員候補者の推薦について

(総務委員会委員長藤田益治君登壇)(拍手)

館山市選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙

○総務委員会委員長(藤田益治君) 去る三月十三日開会の本会議におきまして本総務委員会に付託されました一般議案八件、補正

予算一件につきまして、三月十八日総務委員会を招集し、各議案の審査を行いました。その経過並びに結果について御報告申し上げます。

まず、議案の慎重な審査の結果につきまして、それぞれ全員原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、審査の経過について主なる事項を申し上げます。

議案第十三号非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。今回の改定にあつての考え方について伺いましたところ、人口十万人以下の都市の平均水準、各職種ごとの実際の活動状況等を勘案し、改定を行い、他市と比較できないものについては物価上昇等を参考にして、七割程度の引き上げを行ったとの答弁がありました。

次に、議案第十六号館山市職員等の旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。市内旅費百円についていつからこの額になっているか、また引き上げる考え方はないか質問したところ、四十九年四月一日は八十円から百円になっている、県内の状況を見ると、市内旅費を支給している市で最高が二百七十円、最低が八十円、また全く支給していない市が十市あり、ばらつきがあるということ、さらに最近の交通機関、自動車オートバイ等の発達ということを考慮に入れ検討した結果、しばらくの間据え置こうということであると答弁がありました。

さらに、グリーン車は何キロから使えるか伺いましたところ、現在はグリーン車については認めていない旨の答弁がなされました。

次に、議案第十七号館山市市税条例の一部を改正する条例の制定についてであります。納期前納付に対する奨励金の交付率は、定期預金の利率より低く、さらに今回引き下げることによって前納者が減少し、資金繰りに影響することは考えられないか質問したところ、今回の〇・五割というのは一カ月あつたりのもので、年率に直すと六割となる、昨年松戸市が〇・五割に改定したが、その収納状況等から見ても資金繰りに影響は出ないと考える、〇・八割を〇・五割に下げることによる支出額の減は、今年の試算では三百三十万円、昨年三百十万円であるとの答弁がありました。

次に、昭和五十五年度館山市一般会計補正予算第七号についてであります。歳出三款民生費中、家庭相談員の報酬の減額は、相談員一名の減によるとあるが、一名で十分であるのか、また件数は幾らぐらいであるか、この内容について説明を求めたところ、当初予算において二名を計上したが、適格者が得られなかったことと、相談事項が少なかったという関係で一名ということになった。また、取り扱い件数については、決算見込みで約八百七十件であるとの説明がありました。

次に、第四款衛生費中、と畜場特別会計繰出金が計上されておりますが、このと畜場運営について、また今後の運営についてどのように考えているかたどしましたところ、と畜頭数は漸減の傾向にある、と畜頭数の減、施設設備の老朽化等による将来の見通しとしては明るくない状況にある、また市内の利用者が五〇名弱ということもあり、広域での運営を望んでいるが実現できないというとの説明がありました。さらに、広域市町村間で協力していただけるような形がとれるかについても説明を求め、研究していただく。

きたい旨の要望をいたしました。

次に、衛生センター建設費に關連して、地元の同意を得たとの新聞報道があったが、ごみ処理場の建設計画についてはどのような考えであるか伺いましたところ、建設年次については都市計画審議会などの手続きもあり、それらをすべて進めてからというのとて、五十七年度を初年度として二カ年事業という予定であると答弁がありました。

次に、第六款農林水産業費中、水田利用再編対策推進事業利子補給金について、どのようなものに対して利子補給をしているか説明を求めましたところ、転作に必要な整備資金として二十万から二百万の範囲で貸し付けたものに対し、市が利子補給をする制度で、五十四年度はハウス建設資金八件、球根購入資金九件、草刈機購入資金一件、かん水施設資金一件、農業用資材二件、計二十一件、五十五年度の見込みとしてはハウス建設資金四件、転換水田整備資金一件の計五件であるとの説明がありました。

さらに、再編対策を推進する上から、より多くの農家に對してこの制度が利用できるよう配慮されたい旨の要望をいたしました。

次に、転作水田現地確認調査員報酬金が計上されていますが、この内容については転作の確認はどのように行っているか、また団地化の指導は行っているかについて説明を求めましたところ、一筆単位で転作されている水田については農業協力員が行い、一筆の一部が転作されている場合には市で転作面積を測定し確認している。さらに、団地化については説明会を行い、加算金の適用になるよう指導しているとの説明がありました。

次に、水田利用再編対策転作特別交付金の中の転作物種子確

保事業の内容について説明を求めましたところ、特定作物である飼料作物と大豆等の種子を購入した場合、購入費の約五〇％を補助する事業である、また補助単価の変更により減額をした旨の説明がありました。

次に、八款土木費中、館山駅周辺市街地整備調査委託料、この館山駅周辺市街地整備調査については、五十五年度に引き続き五十六年度当初予算にも調査委託料が計上されているが、今後の調査の進め方、調査完了の時期について説明を求めましたところ、本調査に対する市の姿勢としては、当初から関係住民及び関係機関と協議し、同意を求めながら調査を進める方法で臨んでおり、調査の方法、内容については事業手法により異なるが、五十五年度、五十六年度で基本構想の作成、実施方策の検討を行い、さらに五十九年度ぐらいまで調査を継続しなければならぬと考えている。なお、具体的にどこをどう整備するか、事業手法等は実際の調査を進める中で明らかになるものである。

そこで、事業の内容については、昭和五十二年以降の土地区画整理事業の場合は、A B Cの三ランクに調査の過程を区分しており、A調査は、市街地整備の緊急性の高い地区で近隣住区を単位とした前提条件の整理、市街地環境評価等を行い、基本構想の策定と実現方策の検討。B調査は、事業化の機運が醸成されている区画整理予定地区について地上測量により五百分の一現況図を作成し、区画整理設定を行い、基本計画、事業計画の案を作成する。C調査は、事業化を確実にさせることが必要な地区について模型作成、広報活動等を行う。A調査は五十五年度、五十六年度、B調査は五十七年度、C調査は五十八年度から五十九年度が考え

られるとの答弁がありました。

さらに、本事業は重要な問題として、地域住民の関心も高いので、できるだけ早く結論を出し、要請にこたえられたいと強く要望いたしました。

次に、城山公園用地購入費について、土地取得は予定どおり進んでいるか説明を求めましたところ、予定どおり順調に進んでいる。今回の減額は国庫補助対象に合わせて市で購入することにしたための減額である。それ以外の土地については開発公社で購入しており、五十六年度国、県の補助金がつくので、それにより開発公社から市が購入することとしての説明がありました。

以上、本委員会に付託されました議案九件について、総務委員会における審査の概要を御報告申し上げ、満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げます。総務委員会委員長報告といたします。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。以上で質疑を終結いたします。

## 討 論

○議長（五十嵐 昇君） これより討論に入ります。

通告がありますので発言を許します。

一番議員神田守隆君。御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 議案の第十三号、十四号、十五号の各議案

に反対の討論を行います。

議案第十三号は、議員の報酬を二十一万五千円から二十三万円に引き上げようとするものですが、私はこれまでも主張してきたように、議員の報酬はその地区の平均的な勤労者としての生活を維持するに足る費用及び議員としての通常の活動費用であり、その決定にあたっては十分に住民の了解が得られるものでなければならぬと考えます。議員報酬二十三万円は、たとえば市の技能労務者の平均給料四十七歳で十四万九千百円などという水準からみて高いと考えます。また、報酬審議会では全員一致の答申を得たことですが、その審議経過については公表できないとの答弁であり、報酬審議会の審議といっても十分に住民に開かれたものとなっていない。したがって、報酬審議会の答申を得たからといって住民に納得できるものではありません。

議案第十四号は、市長の給与を五十五万円から五十八万六千円にしようとするものですが、市長の給料を引き上げる理由は特にありません。

同じく、議案第十五号教育長の給料を四十三万五千円から四十六万三千円に引き上げようというものですが、特に引き上げる理由は見当りません。

いずれも、報酬審議会の答申を得たからとされていますが、報酬審議会の審議をガラス張りにし、広く住民に納得のできる形で審議がされるよう強く主張いたしましたして、反対討論といたします。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で一番議員君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わります。

通告をしない議員で討論はございませんか。——討論なしと認

めます。以上で討論を終結いたします。

## 採 決

○議長（五十嵐 昇君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第十三号乃至議案第十五号について起立により採決をいたします。

議案第十三号乃至議案第十五号についての委員長の報告は原案可決であります。

議案第十三号乃至議案第十五号を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（五十嵐 昇君） 起立多数であります。よって議案第十三号乃至議案第十五号の各議案はいずれも原案のとおり可決されました。

次いで、議案第十六号乃至議案第二十号及び議案第二十六号の各議案を一括して採決いたします。

議案第十六号乃至議案第二十号及び議案第二十六号の各議案についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって議案第十六号乃至議案第二十号及び議案第二十六号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

## 議 案 の 上 程

○議長（五十嵐 昇君） 日程第二、議案第二十一号乃至議案第二十四号及び議案第二十七号の各議案を一括して議題といたします。

### 文教民生委員会委員長報告

○議長（五十嵐 昇君） ただいま議題となりました各議案はともに去る三月十三日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長伊賀多朗君。御登壇願います。

（文教民生委員会委員長伊賀多朗君登壇）（拍手）

○文教民生委員会委員長（伊賀多朗君） 本定例議会におきまして去る三月十三日文教民生委員会に付託されました議案五件について、三月十九日委員会を招集し、慎重な審査を行いました。

以下、委員会における経過並びに結果について申し上げます。

まず、最初に議案の審査結果について御報告申し上げます。

議案第二十一号館山市立幼稚園保育料徴収条例の一部を改正する条例の制定については賛成多数をもって、次いで議案第二十二号損害賠償の額の決定について、また議案第二十三号館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について並びに議案第二十四号館山市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例の制定について、またさらに議案第二十七号昭和五十五年度館山市と畜場特別会計補正予算第一号につ



いては全員賛成をもって、原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、審査の過程における主な事項について申し上げます。

議案第二十一号幼稚園保育料についてであります。入園料を普通交付税算定の基準に合せて徴収することは問題がある、さらに本市においては幼稚園の就園率が高く、義務教育化し、公立幼稚園を整備されており、算定の前提条件とは異なった状況にあると質したところ、県内の状況は入園料は千円ないし四千円で七〇〇の市が徴収しており、保育料は最高八千二百円で、五千円がほとんどであり、館山の場合はそれと比べると安い、国の基準に即するということは低いということ、その限度であるということであり、父兄にとってはいい基準ではないか、また国の基準では十万都市で幼稚園五園としており、大体支出総額で一億円程度であるが、館山市の場合は二億九千万ということ、異常な支出になっていると答弁があり、私立幼稚園では入園料四万円に、また保育料は九千円であるが、実際には教材費その他の徴収金で月一万五千円程度になっており、安房郡の場合入園料は取っておらず保育料千五百円乃至八百円であると説明がありました。

また、徴収した入園料は遊具に充てるといふことであるが、今後基本的にはそういう考え方でいられるかと問うたところ、五十六年度及び当分の間は遊具が充実できるまで遊具に充て、それ以後は幼稚園の一般的に施設整備に使いたいと答へがありました。次に、入園料徴収について事前に父兄の了解を得ているかと質したところ、園長会で半年前から話を出している、知り得た範囲では反対はない、父兄全体というところまではいっていないと答弁

があり、また父兄の所得差によって差をつけないで、一律四千円では公平でない、減免の処置を考えないかと尋ねたところ、生活保護の家庭は免除するという説明がありました。

また、幼稚園の遊具、教育内容を検討する会の編成などについて質したところ、教育問題研究委員会が幼稚園部と小学校部に分かれており、幼稚園は園長を中心に五名の委員で構成され、十回以上会議は行われているようであると説明がありました。

次いで、討論に移り、反対討論は、交付税算定上の入園料を基準にして入園料を徴収するということであるが、他市と条件を異にしており、他市が多額の徴収をしているというのを例に挙げても理由にならない、また鴨川や朝夷地区教育委員会では館山の半分以下に押さえているにもかかわらず、ここで館山市が入園料を徴収するということは均衡を失うことになる。賛成討論は、幼稚園、保育園の華義務教育ということには必ずしもよいとは思われない、小さいうちは親の元でしつけをすべきであり、親が経済的負担を軽くするために働きに出て子供を直接育てないということが教育の荒廃を来す結果になっていると思う、四千百の入園料徴収はそう父兄の反対もないということであるし、経済的負担にならないと思う、一部受益者負担ということと賛成する、ということであり、賛成多数をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第二十二号について、印鑑の材質は虎眼石で、床にやわらかいものを敷くことは今後検討する。三万二千五百二十円は同じものを彫っての全部の値段であるとの説明があり、次いで損害賠償の低額なものについて県内で専決処分の処置をとってい

る市はあるか、事の性質上、速やかに対処すべく低額な事故については専決処分の適用が必要と思うがと質したところ、県下二十六市中十五市において専決処分が認められている。額としては十萬以下一市、五十萬未満一市、五十萬以下五市、百萬以下八市であり、また当市での県の地方課の行政査察の際にも専決処分の条例をつくるよう指導を受けている、議会の議決権に係ることなので議会と話し合いを行い十分なコンセンサスを得たい、このことは被害者に対してはプラスであると考えているとの答弁がありました。

さらに、話し合いが成立するまでの経過については、直接本人と話し合いをし、印相印鑑であるので同じ業者につくらせ、費用は一切市が負担するというところで話し合いが成立した、この協議が成立したことを確認する確認書もっており、その後印鑑ができたので議決後に支払うことになるの説明がありました。

次に、議案第二十三号について、青年館の設置についてありますが、県は青年館設置事業補助金交付要綱に基づき市町村が設置するものに対し補助するという事になっており、設置は市の問題であり、また県の建設計画は当初千館だったと聞いているが、現在は千五百館程度建設されたそうであり、来年度からは取りやめたい意向であると説明がありました。

そこで、設置の希望と今後の市の考え方を質したところ、設置要望は従来一館ないし二館程度、県としては従来の小さな青年館でなくともっと広域的な大きな青年館の補助事業をしたい意向で、市はこれに準拠してやっていくことになるが、県の補助がなくなつた場合は、現在より上げているコミュニティ事業の中で、部落

の集会所のようなコミュニティ施設建設について、青年館に見合うだけの補助をしていきたいと答弁がありました。

また、青年館の管理については、町内会長と契約を結び、地元で通常の運営管理を行ってもらい、使用については特殊なケースがあった場合は市のほうと合議していただく、また通常の維持管理費は原則的に地元で負担していただくが、昨年青年館のほうから要望があり、五十五年度から補修費については若干市のほうで助成するよう、材料支給の形で予算化している、火災保険は市有物件としての火災保険に加入し、万全を期しているとの説明がありました。

南町青年館の建設費は七百万円、うち百七十万円が県費並びに市費で、それ以外は地元の寄附をいただいているとのことでありました。

さらに、コミュニティ補助事業の場合、七百万ぐらいかれば百七十万ぐらいの補助を考えているかと質したところ、その場合は施設は市の物件でなく地元の物件であり、四分の一程度の補助を行い、限度額を二百万ぐらいにしたいと現在考えているとの答弁がありました。

次に、議案第二十四号について質疑をして、現在廃棄物の従量制のくみ取りは計量の正確性に不安がありトラブルが予想されるが、住民に周知するために期間を置くべきではないか、また雨水の流入など特別の場合は期限を切って減免措置は考えられないか尋ねたところ、従量制のほうの方が公平で、現在すでに十八リットル単位による従量制を実施しているのが四〇％あり、今回は十リットル単位で四捨五入し、いままですり読み取りやすい、誤差は数

リットルと考えており、あらゆる問題を検討して移行を考えた、減免については考えていないが今後検討すると答弁がありました。

また、原則として、月一回の計画収集体制はくずさず、月二回ふた月一回のところもあり、さらに事務の繁雑を解消するについては、人頭制の場合、住民登録登載人数を基本としているため、月一回は市民課と連絡して異動世帯の変更をしなければならぬが、従量制の場合は住民の届も要らないし、住民票のチェックも不要となる。人数については市から公社に二名出向しているが、公社自体の省力化の検討の中で、一名ぐらい減員可能ではないかと検討していると説明がありました。

また、公社職員との話し合いは進んでいるかと質したところ、職員と組合の団体交渉を行っている、組合として反対はしないが、市民からの苦情があった場合、公社として対処されたいとの意見があり、その方向で進むとの答弁がありました。

また、計量器は水道のようなリットルきざみメーターは不可能で、十リットルが限度であり、重量制についてはかくはん装置を含めて現在まで聞いていない。

また、今度の従量制はすべての問題点を検討した上で移行するものであるが、一年たつて問題が多い場合はその時点で検討すると答弁がありました。

議案第二十七号について、補正予算中、と場の臨時と夫賃金の減額が補正の中心になっているが、労働条件と賃金は妥当かと質したのに対し、日給三千七百円で安いと感じるが、賃金の上昇は使用料の増額となってくるのでむずかしい、勤務体制は週二日ということもあって新規に採用できなかったと答弁があり、と殺状

況の数も市内より市外の数が若干多いと説明があり、また広域的な見地で運営することをかねてから県、広域圏に要望しているが、今後もし引き続き要望していくと回答がありました。

以上、文教民生委員会に付託されました議案について、本委員会の審査の概要を御報告申し上げます。

満場一致の御賛同を賜りますようお願いいたします。文教民生委員会委員長の報告を終ります。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で委員長長の報告を終ります。

ただいまの委員長報告について御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。以上で質疑を終結いたします。

## 討 論

○議長（五十嵐 昇君） これより討論に入ります。

通告がありますので発言を許します。

一番議員神田守隆君。御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 議案第二十一号に反対の討論を行います。

館山市立幼稚園で新たに四千円の入園料を徴収しようというものでありますが、館山市は安房郡内の千倉、白浜、あるいは鴨川などと並んで公立幼稚園が完備され、幼稚園に関しては先進地であると自負をしているわけであります。かつては幼稚園は無料という時代もありました。ところが、最近安房郡市に比べまして一段と館山市は父母負担が多くなってきました。たとえ千倉などでは幼稚園の授業料は千五百円、これに対し館山では三千六

百円です。もちろん入園料を徴収するのは館山だけであります。

市長は、幼稚園の父母負担の基準は国の示す交付税算定の基準だと言ひわけありますが、この中ではなるほど父母負担は授業料で三千六百円、入園料四千円となっているわけです。しかし、この基準は何も館山市だけのためにあるものではありません。ほかの自治体はそれはそれとして独自にその地域にあった基準で定めているのです。

同じ交付税の算定基準では、たとえば市長の交際費は二百万円、市長の給料は月額で五十一万円となっています。市長交際費は四百五十万円の予算ですからこれだけでも二百五十万円オーバー、給料は月額七万円余りオーバーをしているわけで、年額で百二十万円も基準をオーバーしていることになります。基準どおりやるというのなら市長交際費や市長の給料を基準どおりやるだけで、新たに三百七十万円余の財源ができるわけで、入園料を徴収することと新たにふえる分二百七十万円あまりなどは帳消しにしておつりがくるわけであります。

こうした点を見ても、国の示す基準で入園料を取るんだというのは理由が成り立ちません。以上の点からこの議案に反対をいたします。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で一番議員君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わります。

通告をしない議員で討論はございませんか。

（七番議員古賀礼四郎君登壇）

○七番（古賀礼四郎君） ただいまの二十一号議案に対して賛成の討論をいたします。

交付税基準にも示されているとおりの、ワケ内の額でありまして、私は通告質問にも申し上げましたように、子供の教育はあくまでも親がやらなければならぬ、こう思うものであります。他人の先生に預けて、幼稚園、保育園に預けて、スキップの時間がないというのが青少年になってからの教育の荒廃につながっているとは私は信じておりますので、幼稚園教育についても親がもっと余裕を持って自分の子供のしつけをするというのが一番いいことではなからうかと思ひます。

それと同時に、幼稚園教育を義務化するというようなことになつてきたんでは私はいけないと思ひます。幼稚園の教育、就学まではあくまでも親が余裕を持って人間らしい生活教育をやつていかなければならない。学校に入つて初めていろんな知識教育、徳育教育、体育、こういうものをやる。学校に入るまではあくまでも人間としての生活の教育をしなければならぬ。これについて幼稚園とか保育園に預けますと、どうしても集団教育が主になつて一人一人に真から親が今後人間として生きていくべき生活態度、こういうものを教える時間が少ないのではなからうかと思ひますので、あくまでも親がもっとめんどうを見るべきだとこゝろ確信をしております。

よつて、二十一号議案に賛成の討論をいたします。（拍手）

○議長（五十嵐 昇君） 他に討論ございませんか。——討論なしと認めます。以上で討論を終結いたします。

採 決

○議長（五十嵐 昇君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第二十一号について起立により採決をいたします。

議案第二十一号についての委員長の報告は原案可決であります。

議案第二十一号を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(五十嵐 昇君) 起立多数であります。よって議案第二十一号館山市立幼稚園保育料徴収条例の一部を改正する条例の制定については原案どおり可決されました。

次いで、議案第二十二号乃至議案第二十四号及び議案第二十七号の各議案を一括して採決いたします。

議案第二十二号乃至議案第二十四号及び議案第二十七号の各議案についての委員長報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(五十嵐 昇君) 御異議なしと認めます。よって議案第二十二号乃至議案第二十四号及び議案第二十七号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

## 議案の上程

○議長(五十嵐 昇君) 日程第三、議案第二十五号及び議案第二十八号の各議案を一括して議題といたします。

## 建設経済委員会委員長報告

○議長(五十嵐 昇君) ただいま議題となりました各議案は、ともに去る三月十三日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。よって、これより各議案に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長流山源次郎君。御登壇願います。

(建設経済委員会委員長流山源次郎君登壇)(拍手)  
○建設経済委員会委員長(流山源次郎君) 去る三月十三日の本会議において建設経済委員会に付託されました議案第二十五号及び議案第二十八号につきまして、三月二十日午前十時委員会を開会し、慎重審議の結果、全員一致原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、審査の経過及び結果について御報告申し上げます。

議案第二十五号市道路線の認定について次の質問がありました。

蘭南線、竹原山王線について認定するまでの経過についてをたどしましたところ、蘭南線については旧国道であり、沿道の住民より用地を無償で提供するので改良してもらいたい旨の要望に基いて今年度幅員四メートル、延長二百五十三メートルを改良し、市道に認定するものである。竹原山王線については、この奥には場整備により五メートルに拡幅した道路があるが、入口部分が狭いので用地の無償提供を受け、今年度幅員五メートル、長さ四十八メートルを改良し、市道に認定しようとするものである旨の答弁を得て、全員一致をもって原案を可決すべきものと決しました。次に、議案第二十八号昭和五十五年度館山市水道事業特別会計補正予算について主な質疑応答をお伝えいたします。

山本浄水場用地については、地主の理由で買収できない旨の説明であるが、将来買収するのとの問いに対し、現在年間百五十万円の賃貸料を払って借入しているが、山本浄水場は将来にわたって使用していく考えであるので、将来の水道計画に合わせて買収を考えていきたい旨の答弁がありました。

さらに、山本浄水場の面積及び予定単価について質問をしたところ、地目は宅地で面積は三千九百八十一平方メートルだが実測すれば五千平方メートルくらいあるということで、予算積算にあたっては一平米一万円として五千万円計上した旨の説明を受け、説明書では山本浄水場用地が買収できなくなったとして四千四百三十三万九千円減額するとあるが、数字に食い違いがあるがとの再質問に対し、用地購入費について当初山本浄水場用地買収費として五千万円、出野尾関係で八十二万五千円、計五千八十二万五千円を計上したが、年度中途において当初予定してなかった作名、真倉、見物の用地について買収の必要が生じ買収したことによるものである。今回の減額四千四百三十三万九千円は、当初予算から五十五年度執行額九百三十八万五千二百三十円を差し引いた金額である。また説明に具体的に記載すべきだった、不備があったので今後注意したい旨の答弁あり、用地購入費の予算計上にあたっては単価、面積等できるだけの確に把握して計上してもらいたい旨の要望を申し入れ全員一致原案を可決すべきものと決しました。

以上、審査の結果及び概要を御報告申し上げましたが、なにとぞ満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げます、建設経済委員会委員長報告を終わります。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

通告はありませんでしたが、討論ありませんか。——討論なしと認めます。よって討論を終結いたします。

## 採 決

○議長（五十嵐 昇君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

議案第二十五号及び議案第二十八号についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって議案第二十五号及び議案第二十八号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

## 議 案 の 上 程

○議長（五十嵐 昇君） 日程第四、議案第四号乃至議案第十号昭和五十六年度一般会計及び各特別会計予算を一括して議題といたします。

## 予算審査特別委員会委員長報告

○議長（五十嵐 昇君） たいい議題となりました各会計予算はともて去る三月十六日の本会議で特別委員会を設置し、付託されたものであります。

よって、これより各会計予算に対する予算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

予算審査特別委員会委員長安西益男君。御登壇願います。

（予算審査特別委員会委員長安西益男君登壇）

○予算審査特別委員会委員長（安西益男君） たいい議題となりました議案第四号乃至議案第十号昭和五十六年度館山市一般会計並びに特別会計予算に係る予算審査特別委員会におきます審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る十六日開会の本会議におきまして設置されました本委員会を二十三日、二十四日の両日にわたり招集し、各会計における予算につき慎重に審査を行いました。

以下、委員会におきます質疑応答等整理いたしまして、その概要を御報告いたします。

まず、一般会計歳出中、総務費であります。近年情報公開に對する要望が高まっていることから、市政に関する資料を公共的な場所に設置し、市民が活用できるようにすべきと思うがどうかとの質問に對し、現在市の掲示板、広報、回覧等により住民に周知を図っているし、なお予算書等については市民課窓口で市民が利用できるようにしている。その他の公共的な場所への設置については今後検討していきたいとの説明がありました。

次に、コミュニティ事業補助金が計上されているが、本年度の事業計画と交付の基準について説明を求めたところ、五十五年に

交付要綱を定め、これに基づき補助を行う。本年度コミュニティ集会所二カ所、生活道路、生活排水施設等の事業三カ所、コミュニティ広場一カ所を予定している。各事業の補助率としては、防災施設等整備事業については二分の一、限度額二百萬、環境保全施設等の整備事業については三分の一、限度額二十萬、コミュニティ施設、集会所の整備事業については四分の一、限度額二百萬、スポーツレクリエーション施設については二十萬を限度としている。なお、このほかにも活動としては健康づくり、クリーン活動等実施されているとの説明がありました。

次に、民生費中、民生委員業務委託料が計上されているが、この内容について説明を求めましたところ、館山市における民生委員の定数は九十三名で、厚生大臣から任命されている。業務委託料については、民生委員の活動費が主なもので、そのほか研修費地区会議の費用であり、活動費は年間一人当たり三万円程度であるとの説明がありました。

次に、衛生費し尿処理費中、需用費が大幅に増額されているが新しい施設の試運転の計画、職員に対する技術指導について説明を求めましたところ、七月から施設を動かすことを考えている。試運転は通常二カ月であるが、職員の指導訓練を含めて三カ月を予定し、引き続き本運転に入りたいとの説明がありました。

次に、労働費中、勤労者団体補助金が計上されているが、対象者支出目的について述べましたところ、労働組合組織を持ったところに補助するものであり、健全な組合活動の推進、勤労意欲の増進等を目的として、具体的には生活相談所の開設、労働講座の開設、体育大会等補助目的に沿って実施されているとの説明が

ありました。

次に、水産業費中、館山湾漁場開発調査研究委託料が計上されているが、調査の内容について質問いたしましたところ、館山湾に関する基礎的なデータを集めることが必要と考え、五十四年度から五十六年度にわたって湾内の海底、底質、潮流、動植物、水産資源、人口魚礁等について調査し、完全なデータに基づいて今後の方向を考えていきたいとの説明がありました。

次に、観光費中、ヤシ並木管理委託については従前から実施されているが、効果が期待できるのか質問したところ、従前は植物園に委託していたが成果を上げることが困難であった、本年度は委託方法を変更し、地元の方々に委託を予定している。委託内容としては肥料下刈り、草刈り、かん水等を考えているとの説明がありました。

次に、土木費中、館山駅周辺市街地整備調査については、市民の期待も大きく、一日も早い事業化が望まれているが、本年度の調査内容について説明を求めましたところ、調査は独立したものではなく、五十五年度現況調査として前提条件の整備、整備課題の設定を行い、これを受けてさらに度合いを深め、整備のための基本構想を明らかにし、事業モデルを検討するが、行政と地元と一体となって進めていく旨の説明がありました。

次に、消防費中、防火水槽建設については寄附金が見込まれているが、建設費の増に伴い地元の負担がふえている。これを軽減できないか、また貯水池の移転については寄附金なしでやれないかたどしましたところ、消防ポンプ等は寄附金をもらわない方針できているので貯水池についても今後軽減したい。なお、移転に

ついては、その時点において偶々に検討するとの答弁がありました。

次に、教育費中、博物館建設に伴い展示資料購入費が計上されているが、どんな資料の購入を予定しているか、また資料としてどの程度の掌握をしているか伺いましたところ、本館発足はまた先になるので当面分館資料として里見関係資料を購入することとし、来年度以降本格的に購入したい。なお、現在までの調査段階で里見関係資料約八十点、民族資料約七十点、考古関係資料約五十点、古文書約百点を確認しているとの説明がありました。

次に、マラソン大会委託料が計上されているが、五十五年度初めての事業として実施した結果についてまた五十六年度の取り組みについてたどしましたところ、参加者は申し込み期日まで八百五十二名の申し込みがあった。当日風雨が強く、スタート時点で雨は止んだが、二百二十九名の棄権があり、当日受付六百二十三名、当日のオープン参加八名、計六百三十一名が参加、うち地元参加者は三十名であった。初めての試みとして種々の問題点もあると考えられるので、各係別に問題点を集約し、実行委員会を開いて十分検討し、次の大会に備えたい。なお、地元参加者をもっとふやすよう呼びかけたいとの説明がありました。

次に、歳入であります市税については各税目ごとに積算基礎、課税客体の正確な把握等について詳細に審査を行い、公平な課税の確立に努めるよう要望いたしました。

次に、地方譲与税、国の納交付金、補助金、助成金についても交付基準等について説明を求め、現行制度の問題点、超過負担の解消など市の立場から国に対し改善方を積極的に要求する運動の



展開を要望いたしました。

次に、使用料、手数料中、住宅使用料、温水プール使用料について質問を行い、施設の有効利用方策の検討を要望するとともに特に市営住宅家賃決定については、条例により市長に委任されているが、法の趣旨から条例により決定すべきではないか、当局の見解を求めましたところ、県の担当課とも相談し、検討したい旨の説明がありました。

次に、繰越金につきまして、決算見込みをたてましたところ、三億五千万円程度が予想されとの説明がありました。

次に、特別会計国民健康保険について、国保税は予算では一九多増となっているが、本算定見込みについて質問いたしましたところ、現時点でははっきりしないが、医療費アップ分一一多はどりしても上げなければならないと考えている。六月本算定時さらに努力するとの答弁がありました。

さらに、繰越金については保険税の軽減に充当してもらいたい、現在どのくらい見込まれるか伺いましたところ、一月末現在対前年比一三・五多の伸びであり、このまま推移すれば一億円程度の繰り越しと考えているとの説明がありました。

次に、ユースホステルであります、利用状況、県の委託金の積算基準について説明を求めたところ、利用状況はほとんど横ばいで五十六年度七千九百人の宿泊を予定している。県委託金については宿泊料の増減にかかわらず運営に必要な経費を人件費を含めて県が負担する契約となつておりとの説明がありました。

次に、学童災害共済事業につきまして、給付状況、基金の残額について説明を求めましたところ、五十五年度団体十件、個人二

十六件で二十七万四千円が給付され、ほとんどがねんざ、骨折である。なお、基金の額は現在百七十万円であるとの答弁がありました。

次に、水道事業について、作名ダムから給水を受けた地域で水が臭いとの声があったが、これが対策について質問いたしましたところ、昨年の夏過ぎに水がにおうとの指摘があり、東京都の水道局に分析依頼した結果、藻の発生によるものであるとの結論を得たので、対策として五十六年度ダムの中に空気を送り込み、水を攪拌する施設を予定しておるとの答弁がありました。

次に、国民宿舎事業であります、年間宿泊利用者数二万七千六百人の積算について説明を求めたところ、五十五年度三月末見込みで一万九千人、利用率四四・三六多が予想されるが、新築されたばかりで宣伝等行き届かなかつた面があった、五十六年度は利用率五三・六五多を見込んで計上したとの説明がありました。

次に、討論を行い、新年度予算の特徴は市民の税負担が高くなり、新たな負担も求められている、国、県による十分な財源処置がなされておらず自治権が侵害されている、個々の施策にも問題点が指摘できるとした反対意見と、市民の要望を的確に汲んで健全財政を堅持する姿勢を評価するとの賛成意見があり、採決の結果、議案第四号一般会計予算、議案第五号国民健康保険特別会計予算については賛成多数をもって、議案第六号乃至第十号の各特別会計予算については全員一致をもって、それぞれ可決すべきものと決しました。

以上、本委員会におきます審査の概要を御報告申し上げますが、清場の御賛同を賜りますようお願いいたします、委員長報

告を終わります。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。質疑を終結いたします。

## 討 論

○議長（五十嵐 昇君） これより討論に入ります。

通告がありますので、発言を許します。

一番議員神田守隆君。御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 議案第四号及び議案第五号に反対の討論をいたします。

昭和五十六年度館山市一般会計予算についてであります。

昨年の消費者物価指数は賃金の上昇を上回り、勤労者の実質賃金は低下したと発表されていますが、市民生活をめぐる現況は大変に厳しいものがあります。

こうした中において、新年度予算は、まず第一に市民生活を守る予算でなければならぬと考えております。ところが、残念ながらそれとはむしろ逆のものになっていると言わざるを得ません。新年度予算の特徴は、市民にとって大変な増税と新たな負担を求めるものとなっていることです。

個人の市民税は、対前年比一七％増であります。名目賃金が六％程度上がったとしても、消費者物価の上昇に食われるばかりかさらに一七％もの増税であります。実質的な生活苦はさらに重くなるわけであります。

また、幼稚園の入園料を新たに徴収するなど、市民の負担はふえるばかりです。

その一方で、都市計画税の課税などは、本来市街化区域にしか課税できないのに、市街化区域と市街化調整区域の線引きができていないからと、市の区域全域に課税していますが、この中には当然市街化調整区域として課税の対象になるはずのない地域も含まれています。これなど脱法の疑いがある課税をそのままにしています。

依然として消防施設や道路、水産施設の建設にあたって寄附金を住民に求めるといふ姿勢も変えていません。本来受益者のはっきりしているものはそれ相当の分担金を求めるべきであり、そうでなければ公費で負担するべきものです。

たとえば、消防関係の寄附金は、貯水槽の設置にあたり町内会長より寄附をいただくとの答弁であります。その寄附金の出どころが町内会の会費であれば、地方財政法で禁止している割り当て寄附であることが明白であります。住民から見れば会費という名の割り当て寄附だからであります。一応、予算書では寄附はすべて一般寄附金で一般財源に入るとされ、たとえば消防の寄附金では貯水槽をつくるための寄附金という体裁はとっていませんが、実質は消防のための寄附であります。こうした市民にとっての税外負担は直ちになくすべきで、地方財政法に違反の疑いが持たれるところであります。

このように、市民に負担を強要しているといっても過言ではありません。ところが、その一方でそれとはうらはらに、本来国や県が負担すべき事務費などについて、市が肩がわりして負担する

などの実態があります。

たとえば、国民年金の事務は国の委任事務ですから、それに要する経費はすべて国がみるべきであります。概算千三百万円を市で肩がわりして超過負担としてありますし、保育所費の超過負担は六千二百万円にもなるとの答弁であります。

民生委員は、市で推薦し、県で審査し、厚生大臣が委嘱するものであります。民生委員の方々は国から委嘱をされているのでありますから、その必要な費用は国で出すべきであります。国は何も出しませんので、市は業務委託料として二百八十一万八千円、さらに退任の方の記念品代まで出しているのであります。

国が市に対して負担すべき税金相当についても、民間に比べて安くなっています。国や国鉄などの公社は固定資産税にかわって国有資産等所在市町村交付金、納付金を市に納めますが、これは固定資産税相当額であって、民間であれば当然負担する都市計画税相当分は納付されません。この分だけでも一千万円も安くなっていると推察されます。

自衛隊基地関係の国有提供施設等所在市町村助成交付金では、その積算根拠から民間では当然固定資産税の対象となる償却資産などははずされています。

国には甘く、安く、民間からは厳しく、辛くという実態をあらわしています。これらのことはひとり館山市だけの問題ではありません。自民党政府は地方の時代などの甘い言葉をもてあそんでいます。まずすべきことは地方自治体に押し付けている超過負担を解消し、地方自治体の財源を確保することです。なければなりません。地方自治体を国の下部機関とみなし、仕事を押し付ける

けれども金はよこさない、こうした地方自治をないがしろにする国の姿勢は厳しく追及されなければなりません。こうした中で、国や県に厳しく対決し、市民の生活を守り、地方自治を守る市長の政治姿勢が問われるのであります。

残念ながら、この予算では幼稚園の入園料などに見られる、市民への安易な負担増で乗り切ろうとしています。その一方で切り詰めれば切り詰められる費用、こうしたものを削っています。市長や議員の報酬増や、市長交際費が国の基準二百万円を大幅に上回っていることや、市長の海外への旅費を予算化するなどは、こうした市長の政治姿勢を示しています。

また、天守閣形式の博物館分館に約二億円を投じますが、天守閣形式にすることには重大な問題があります。博物館である以上、天守閣である必要、意義もないと考えます。

さらに、起債は対前年比で三億六百万、二四・五％もふえています。その結果、起債の依存度は一四・八％から一七・八％へと二・二ポイントもふえています。これらは結局将来の負担にかかってくるわけで、財政の健全化を維持する上で重大な問題点を持つものであります。

以上の点から、この予算にあらわれる市長の政治姿勢にも大変な問題点を指摘するわけであります。

以上の点から、この予算に反対をいたします。

次に、議案第五号国民健康保険特別会計予算についてであります。

国保税は市民が納める税額の中で最も高額なものであります。そして、国保税は対前年度比一九・九％ふえたと予算上していますが、

もはや負担の限界を越えています。国保税会計は特別会計として独立していますが、その中身を見ると、国保は本来国の委任事務でありますから、その事務費は全額国が負担すべきであります。ところが、一般管理費、五千七百八十三万一千円に対し国の事務費負担金は二千五百二十九万三千円にすぎません。差し引き三千二百五十三万八千円も超過負担を強いられるわけであります。国はわずか四四％しか負担をしていません。

ところで、こうした本来国が負担すべきものを負担しているのは、結局現在では国民健康保険税の納税者であります。国のこうした姿勢は厳しく追及されなければなりません。と同時に、国保税の納税者はこうした超過負担分を負担する理由はありません。

市長は、こうした点を十分考慮し、一般会計の繰り入れをするなどの姿勢を示すべきであります。また、基金を取りくずすなどして市民の負担を軽減すべきであります。

以上の点を強く主張いたしましたして、この予算に反対をいたします。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で一番議員君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論はございませんか。

（一二番議員栗原一雄君登壇）

○一二番（栗原一雄君） ただいまの委員長報告に対しまして賛成の討論を行います。

特に、議案第五号国保に係る医療費無料化の老齢者の占める全国平均は八・二五％で、本市の国保に占める七十歳以上の老齢者の割合は一・九四％となっております。したがって、国保予算総

額の三分の一を支出しており、さらに年間約百五十人の増加となっており、これはもとより生産年齢者の所得を得る産業、企業が少なく、したがって若年層の市外流出に伴う人口構造の変化によるものと考えます。

医療費の改定は、いままでの例では二年ごとに改定が行われ、逐年増加の一途をたどっております。現年度に予定されました医療費の改定が昭和五十六年度に見送られることになっており、したがって県下においてはおおむね新年度は一・一％の改定を見込んだ予算編成となっております。

歳出の中で大勢を占める医療費に支払われる保険給付費は九五・八五％で、したがって前年度の当初予算対比で一五・九五％の伸びが見込まれております。

高額医療費についても、老人医療費の無料化と医療技術の高度化、高額医療機器の普及等による支出の伸び率を考えますと、現年度以上の予算額を確保しなければ医療福祉の収支の均衡が図られないことは必至で、したがって新年度は特に高額医療費の大幅な伸びが見込まれており、合わせて老人保険医療制度の抜本的改正こそ緊急の課題として国が考えるべきで、現行の国民健康保険法の制度の中では医療費の動向を無視して医療福祉は解決できる問題ではなく、したがって財源確保による医療保障制度の確立のために必要な欠くことのできない予算措置として認めるものでございます。

以上の理由をもって賛成をいたします。

○議長（五十嵐 昇君） 他に討論ございませんか。——討論なしと認めます。以上で討論を終結いたします。

採 決

○議長（五十嵐 昇君） これより採決いたします。

採決にあたりましては分割して採決いたします。

まず、議案第四号昭和五十六年度館山市一般会計予算について起立により採決いたします。

議案第四号についての委員長報告は原案可決であります。

委員長の報告どおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（五十嵐 昇君） 起立多数であります。よって議案第四号

昭和五十六年度館山市一般会計予算は原案どおり可決されました。

次いで、議案第五号国民健康保険特別会計予算について起立により採決いたします。

議案第五号についての委員長の報告は原案可決であります。

委員長の報告どおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（五十嵐 昇君） 起立多数であります。よって議案第五号

国民健康保険特別会計予算は原案どおり可決されました。

次いで、議案第六号乃至議案第十号の各特別会計予算を一括して採決いたします。

議案第六号乃至議案第十号の各特別会計予算についての委員長

の報告は原案可決であります。

各特別会計予算を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって議案第六号乃至議案第十号の各特別会計予算はいずれも原案どおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（五十嵐 昇君） 日程第五、議案第二十九号契約の変更に

ついてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

議 案 の 内 容 説 明

○議長（五十嵐 昇君） 議案の説明を求めます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 議案第二十九号契約の変更について提案理由の御説明を申し上げます。

去る二月十二日の臨時市議会におきまして議決をいただきました船形小学校防音改築工事第一期躯体に係る工事請負契約につきまして、工事着工に際し試験ぐいを打設したところ、ぐいの数量が当初設計より減少することが明らかとなりましたので、それに相当する額四百七十一万二千元を当初契約金額二億二百万円から減額するための契約変更をしようとするものであります。

よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（五十嵐 昇君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

○議長（五十嵐 昇君） 御質疑を願います。

○二三番（菊井敏博君） 一点お伺いします。

これは、三中の地震のような問題があったんでお聞きするんですが、試験ぐいを打ったら地盤が固いためにぐいの数が少なくて済んだ、そのために減額するんだということですが、設計の途上でこういう形は——地質の調査とか、そういうものはしないんですか。その点だけ一点お聞きいたします。たいがい地質調査、その他こういう問題ですからして、設計をするもんだというふうに認識していたんですが、一番大事なぐいが少なくて済むという設計の仕方に疑問を生じるんでお聞きするわけです。

○教育長（安田豊作君） 設計にあたっては、地質調査を五十三年の十二月に興亜開発千葉支店によって行いました。それは試錐を四本打ったわけでございますが、そのおの第一が二十三メートル、第二が十七メートル、第三が十八メートル、第四が五メートルというような数字が出たわけでございますが、その結果によってくい打ちの設計をしたわけでございます。当初設計においては百五十二カ所の予定でございましたが、そのうち五カ所です。くいの数にすると七本打たなくてもいいという結果に実施の段階でなりましたので、その分が減額になる、こういうことです。

○二三番（菊井敏博君） 了解しますが、いろいろこのような大きな工事の設計にあたっては、今後慎重に御配慮願いたいと思います。

○議長（五十嵐 昇君） 他に御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結します。

#### 委員会付託の省略

○議長（五十嵐 昇君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論を省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。

#### 採 決

○議長（五十嵐 昇君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

#### 議 案 の 上 程

○議長（五十嵐 昇君） 日程第六、議案第三十号昭和五十六年度館山市一般会計補正予算を議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

#### 議 案 の 内 容 説 明

○議長（五十嵐 昇君） 議案の内容説明を求めます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 議案第三十号昭和五十六年度館山市一般会計補正予算第一号について提案理由の御説明を申し上げます。

歳入歳出それぞれ四百八万九千円を追加し、総額九十一億八千

八十三万八千円とするものであります。

内容は、来る四月五日に執行の県知事選挙に係る執行経費のうち、昭和五十六年度分で、投票所経費、開票所経費及び準備事務費として投票事務従事職員等に係る時間外勤務手当三百二十一万四千円及び投票票管理者等に支払う報酬四十万六千円が主なものであります。

なお、これに要する財源は全額県支出金を見込んでおります。よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（五十嵐 昇君） 説明は終わりました。

御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

### 委員会付託の省略

○議長（五十嵐 昇君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決することにより御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（五十嵐 昇君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

### 議案の上程

○議長（五十嵐 昇君） 日程第七、議案第三十一号人権擁護委員候補者の推薦についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

### 議案の内容説明

○議長（五十嵐 昇君） 議案の説明を求めます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 議案第三十一号人権擁護委員候補者の推薦について提案理由の御説明を申し上げます。

目下、一名欠員中の人権擁護委員の候補者として、人権擁護委員法第六条第三項の規定により、西村真次さんを最も適任と信じまして御推薦申し上げたいと存じますので、よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（五十嵐 昇君） 説明は終わりました。

御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結します。

### 委員会付託の省略

○議長（五十嵐 昇君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論を省略、直ちに採決することにより御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（五十嵐 昇君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

### 館山市選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙

○議長（五十嵐 昇君） 日程第八、館山市選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙を行います。

動 議

（二四番議員和田一郎君登壇）

○二四番（和田一郎君） 議事進行について動議を提出いたします。ただいま議題となりました選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙につきましては、三月五日開催の全員協議会におきましてその選考方を総務委員会に一任してありますので、選挙の方法は地方自治法第百十八条第二項の規定による指名推薦をもって行い、指名者は総務委員会委員長において指名していただきたいと思います。

ここに、議事進行の動議を提出いたします。満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げます。

（「賛成」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） ただいまの二四番議員君の動議を議題といたします。

本動議は、選挙管理委員会及び同補充員の選挙の方法は指名推薦とし、総務委員会委員長の指名によるということであります。お諮りいたします。本動議のとおり決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって本動議は可決されました。

これより総務委員会委員長の指名を求めます。

（総務委員会委員長藤田益治君登壇）

○総務委員会委員長（藤田益治君） 御指名によりまして、館山市選挙管理委員会委員、同補充員の選挙につきまして総務委員会を代表いたしまして御指名申し上げます。

去る三月五日開催の全員協議会におきまして、後任の選挙管理委員会委員、同補充員の選考方につきまして本委員会に一任となりましたので、三月十八日委員会を開催し、慎重に選考いたしました結果、お手元に配付の指名表のとおり、委員として鈴木正氏、宮沢茂氏、加藤利氏、二村俊夫氏、補充員として小田恒氏、熊切武俊氏、加藤栄一氏、平嶋茂氏をそれぞれ最適任者と認め推薦することに決定いたしました。

なお、補充員の補充の順序は、第一順位小田氏、第二順位熊切氏、第三順位加藤氏、第四順位平嶋氏と決定いたしました次第でございます。

なにとぞ満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げます。



○議長（五十嵐 昇君） ただいま総務委員会委員長において指名いたしましたとおり、これらの方々を館山市選挙管理委員会委員及び同補充員の当選人と定めますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって選挙管理委員会委員に鈴木 正氏、宮沢 茂氏、加藤 利氏、二村俊夫氏、同補充員に小田 恒氏、熊切武俊氏、加藤栄一氏、平嶋 茂氏、以上のとおり当選されました。

閉

会 午後零時十三分開会

○議長（五十嵐 昇君） 以上で本定例会に付議されました案件はすべて議了されました。

よって、これにて第一回市議会定例会を閉会いたします。

○本日の会議に付した事件

- 一、議案第四号乃至議案第十号、議案第十三号乃至議案第三十一号
- 一、館山市選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙

地方自治法第二百二十三条第二項の規定による署名する。

館山市議会議長 五十嵐 昇

館山市議会議員 石 井 謀

館山市議会議員 安 西 益 男

